

鹿児島県立与論高等学校

校長通信

第15号(令和7年8月20日/校長 大倉秀心)



校訓「好学 創造 親和 不屈」

鹿児島県大島郡与論町茶花1234番地1



電話 (0997) 97-2064

FAX (0997) 97-2844



あっぱれ!吹奏楽部 県コンクール金賞!南九州大会出場

7月25日(金),第70回鹿児島県吹奏楽コンクールにて,本校吹奏楽部が高校A(大編成部門)で金賞を受賞し,3年連続の南九州大会県代表という快挙を果たしました。

吹奏楽部の皆さんが大会に出発する際に,私は島外出張で激励することができなかったことが心残りだったのですが,大会のプログラムを確認したところ,高校A部門に出場していることを後で知って,最初は印刷ミスか何か手違いがあったのではないかと思います。

しかし,大会後,堀之内先生から金賞受賞の報告とともに,「敢えてのA部門出場だった」ということを伝えられ,吹奏楽部のチャレンジング・スピリットに心の中で「あっぱれ!!」を贈りました。校長として誇らしく思います。

「2年生4人でA部門に出場することは部員共通の意思であり,全体の熱量が上がるきっかけになりました」という部員の言葉と,「今年度の挑戦は,わずか4名という少人数での出場。練習では人数のハンデを感じさせない演奏表現の工夫に時間を費やしました。不足しているパートがある中で,部員たちは『足りない楽器の音は,聞いている人に想像してもらおう』という思いを胸に,ひとつひとつの音に心を込めて演奏しました」という堀之内先生の言葉を聞いて,昨年度と同じでは満足しない向上心と,小規模校であることを逆手に取り,大規模校ではできないことをやってのける反骨精神が感じられて,吹奏楽部の皆さんが本校が目指す生徒像を体現していて心から嬉しく思いました。また,前号の校長通信で書いた内容のキーワード「想像(力)」にも触れられていて,物事がうまく回るにはやはり個々の「想像(力)」が必要なのだ改めて感じる次第でした。



県コンクールA部門金賞!

経験値が個の力を高める

今回の吹奏楽部の素晴らしい成果は,昨年度,沖縄県立芸術大学の研究プロジェクト「与論島の湧水をめぐるソングスケープ」に吹奏楽部が参加したことが大きく関わっていると思います。

このプロジェクトは,生徒たちにとって今では生活の中で直に接することがほとんどなくなってしまった湧水のことを知り,音楽を通して湧水とともにあったかつての島の暮らしを想像する試みとして着想されたそうです。

まず,吹奏楽部の生徒4名は与論島の湧水4カ所(アマンジョー・カミゴー・シーシチャゴー・キンジャゴー)を訪れ,そこでそれぞれが感じた湧水の様子や体験を共有した後,五感を使って島の風景を捉え,自由に音で表現することにつなげていきます。また,「学校からの帰り道をフィールドワークする」という課題も与えられ,部活動からの帰宅時に,視点を変えていつもの帰り道を観察し,こちらも五感を使って感じたことを書き留める実践にも取り組んだそうです。

その後,即興演奏をベースに島の風景や湧水を音で表現するワークを通して,生徒たちはどんな順番で,どんな情景描写を入れるのか,そこではどんな楽器を組み合わせるのか,旋律やリズムから,水の動きや人間の感情を想像します。そして,これまで話し合った内容を書き出し,一つのストーリーに落とし込んでいきます。その中で,与論島に暮らしてきた人たちの水への想いを表現するものとして,楽曲の中に十五夜踊の雨乞いの場面も組み込むことになりました。

このように,フィールドワークからイメージしたこと,これまで島の歴史や芸能について自分たちが勉強してきたことをベースに即興演奏でのセッションを重ねながら,互いに音と言葉を交換し,様々な発想を出していく過程を通して,4人それぞれが最初に抱いていた水のイメージが一つのストーリーへと結実していき,『島に流れる水の導き』が生まれたのです。

昨年11月の与論町小中高音楽発表会や,今年4月の沖縄県立芸術大学「琉球弧の湧水をめぐるソングスケープ—芸術表現を通じた環境教育の研究実践報告—」でこの曲をお披露目できたのも貴重な経験だったと思います。

0から1(ゼロからイチ)を生み出す創造的(クリエイティブ)な活動を経て,吹奏楽部員たちは一回りも二回

りも人間的に成長し、自信をつけたのではないかと推察しています。私は常々、「与論だからできること、与論でしか出来ないこと」をとことん追求して、自分の存在価値を高めなさいと皆さんに伝えていますが、吹奏楽部員はまさにそれを地でいっていると言えるでしょう。

(LINKAGE Booklet Series『表現と知を編み直す
02 土地とともに歌うこと』 呉屋淳子・向井大策 編
を参考にしました。本校図書館にあります)

東京大学「夏季集中サイエンスキャンプ」 4期生が成果発表

7月28日(月)～30日(水)、東京大学柏キャンパスにて行われた「サイエンスキャンプ」に2年生6名が参加しました。今回は本校をはじめ、大島高校、古仁屋高校からも参加がありました。本校は今年で4期目の参加ということになります。

30日(水)に行われた成果発表会で本校生は2人組3チームで発表を行いました。研究テーマは以下の通りです。



東大柏キャンパスにて

チーム1「不純物の入った貯水タンクの水や、鍾乳洞の水で植物は育つか」

チーム2「災害時における水の確保と家庭での軟水化について」

チーム3「焼酎粕及び砂浜に打ち上がった海藻の堆肥化による赤土流出の防止」

今年度は海外からの大学院生やインターンシップで東京大学に来ている方々も多く、英語で自己紹介を行うなど、積極的にコミュニケーションを取る機会にも恵まれていたようです。

カナダ・トロント大学から東京大学を訪れているアイシャさんも、本校生が上京するまでの約1ヶ月の間、本校にて研究活動に関する授業を開いてくれたり、サイエンスキャンプ中も測定結果の分析や考察、発表の準備にいたるまで付きっきりで指導・助言をいただいたようです。本当に有り難いことです。

今回の研究発表でテーマとして取り上げた事柄を通して、より一層自分たちの住む与論島に対する興味・関心・愛着が増すと同時に、様々な課題意識も芽生えたのではないかと思います。その課題を解決する方法を皆さんが生み出すことを期待しています。

1期生の吉田さんからはオンラインで応援メッセージがあったようです。2期生の先輩たちも成果発表会に駆

けつけていました。そして当日は3期生の研究内容を一部引き継ぎ活用しているものもあったようです。このように今後も縦の繋がりを大事にして後輩たちにバトンを渡し、与論島のために貢献できる人材に育って欲しいと思います。

鹿児島大学「価値創造ゼミ」スタート

鹿児島大学が主催する「価値創造ゼミ」は、「創無活有:無いものを創り、有るものを活用する」を大きなテーマとし、与論町が抱える地域課題を題材に、生徒が主体的に課題を探究する今年度から始まった活動です。1年生6名が、8月1日(金)～3日(日)にかけて鹿児島大学で行われたゼミの実習に参加しました。

実習では、自分たちの課題研究テーマに関してすでに行われている実践や先行研究について、大学の先生方から直接お話を伺うことができ、大変貴重な経験となったようです。また、生徒たちから出たアイデアを検証するために、動画制作とアンケート作成を行い、さらにそれらをより良くするための助言をいただきました。今後、与論町民の皆さんに動画視聴・アンケート回答をお願いする予定になっているので、研究テーマはここでは伏せておこうと思います。楽しみにしておいてください。彼らの研究が与論島をより良く、より面白くすることを期待しています。

この「価値創造ゼミ」には私も同行しました。一番印象に残ったのは、生徒6名が積極的に意見を言ったり、主体的に動画制作をする様子でした。大学の先生方とも臆することなく意見を交換し、新しいアイデアをリラックスした雰囲気の中で生み出していく様子に頼もしさを感じました。今後の彼らの更なる成長を期待するとともに、このような貴重な経験を本校生が受けられる有り難さを改めて感じました。



鹿児島大学での実習

東京大学「サイエンスキャンプ」、鹿児島大学「価値創造ゼミ」のどちらについても、与論高校に両大学が御協力をいただいていることに心から感謝申し上げます。生徒の皆さんも与論高校だからこそできるこれらの探究活動の有り難さを十分に認識し、将来の地域貢献につなげてもらいたいと考えています。

そして、本校の探究活動に日頃からお力添えをいただいている与論町海洋教育推進協議会の皆さんに改めて感謝申し上げます。